

～野球殿堂入り表彰規程改正～

事務局長 小林 二三男

「野球殿堂」は、日本の野球の発展に大きな貢献をした方々の功績を永久に讃え、顕彰する為に1959年に創設されました。「殿堂」とは英語で“Hall of Fame”といわれ、直訳すると「名誉の殿堂」という意味になります。殿堂入りされた方々の表彰レリーフ（ブロンズ製胸像額）を野球体育博物館内の殿堂ホールに掲額し、永久にその名誉を讃えます。

表彰規程は、博物館設立時に制定されその後、時代背景に応じ適宜条文の改正や一部見直しが計られ、「候補者の投票人数の変更」「表彰委員の資格変更による増員」「海外で活躍する選手達の取扱」等が実施されて参りました。しかし、創設から50年近くが経過し周辺環境の変化によって抜本的な改正が必要になり、2年間に亘り検討した結果、本年6月の理事会におきまして、表彰規程改正案が承認されました。

大きく変わった所は、競技者表彰委員会が「プレーヤー表彰」と「エキスパート表彰」の2つの部門に分かれて表彰者を選考することになったことです。

「プレーヤー表彰」はプロ野球選手を引退して5年経過した方が対象で、監督・コーチをしていても差し支えありません。

「エキスパート表彰」はプロ野球の監督・コーチなど指導者としての評価、もしくは選手引退後21年以上（経過措置として来年は26年以上）経過している方を対象として選考いたします。

この改正によって、選手としての印象が強いうちに評価されることで早めの殿堂入りが可能になりました。又、プレーヤーとしての評価と指導者としての評価が混同されることがなくなりました。

この表彰規程は平成20年1月に発表される「野球殿堂入り」から適用されます。



【平成20年野球殿堂入り記者発表】

平成20年野球殿堂入り記者発表は、平成20年1月11日(金)午後3時から館内の殿堂ホールで行う予定です。ご入館された方々も見学できますので、ぜひお越し下さい。



野球殿堂入り表彰規程改定項目

第2章 競技者表彰委員会

◎競技者表彰にプレーヤー表彰とエキスパート表彰の2つを設ける。

		変更点	従来
1・プレーヤー表彰	委員	・変更無し	・野球報道に関して15年以上の経験を持つもの。
	有資格者	☆プロ選手のみを対象として選手引退後、5年を経過してのち15年間を有資格とする。(経過措置として平成20年は5年延長)	・現役を引退した競技者(選手、監督、コーチ、審判員)を対象として引退後、5年を経過してのち11年間を有資格とする。
		☆選考時に死亡している時には経過年数は必要ない。	・選考時に満65歳に達している時、又は死亡した時は経過年数は必要ない。
		☆選手引退後は選手以外で野球に関わっていても差し支えない。	・選手引退後に監督、コーチ、審判員となった場合にはこれを現役の引退とは見なさない。
	投票	☆競技者表彰委員の幹事会により30名以内の候補者名簿を作成。	・競技者表彰委員の幹事会により30名の候補者名簿を作成。
		☆投票は7名以下の記名式。7割5分以上の得票で殿堂入り。	・投票は10名以下の記名式。7割5分以上の得票で殿堂入り。
☆有資格初年度の得票率が有効投票の3%に満たない時は、次年度以降候補者とはならない。		・規程無し	
2・エキスパート表彰(新設)	委員	☆競技者表彰委員会によって野球殿堂に選出された者及び競技者表彰委員会幹事。	・規程無し
	有資格者	☆プロの監督、コーチ、審判を対象として引退後、6ヶ月を経過している者。	
		☆選考時に満65歳に達している時、又は死亡している時には経過年数は必要ない。	
		☆プレーヤー表彰の有資格者だった人で現役引退後、21年以上経過している者。(経過措置として平成20年は5年延長)	
	投票	☆競技者表彰委員の幹事会により10名以内の候補者名簿を作成。	
☆投票は3名以下の記名式。7割5分以上の得票で殿堂入り。			

第3章 特別表彰委員会

		変更点	従来
委員	・変更無し	・日本プロ野球組織の役員及び元役員、社会人野球及び学生生徒の公式団体の役員、並びに野球に関係のある学識経験者から14名とする。	
選考範囲	☆削除	・選手、コーチ、監督及び審判員に対する選考は、選考の日の属する年の17年以前に現役を引退、又は死亡した者とする。	
	☆アマチュア野球の競技者(選手、監督、コーチ、審判員)を対象として、選手は引退後5年、監督・コーチ・審判員は引退後6ヶ月を経過している者。	・規程無し	
	☆選考時に満65歳に達している時、又は死亡している時には経過年数は必要ない。	・規程無し	
	・変更無し	・プロ及びアマチュアの組織又は管理に関し野球の発展に顕著な貢献をした者又はしつつある者。	
	・変更無し	・特別表彰委員会の委員は、その任期にある限りは殿堂入りとして選出されることはない。	
投票	☆候補者選考委員会により10名の候補者名簿を作成。	・候補者選考委員会により15名の候補者名簿を作成。	
	・変更無し	・投票は3名以下の記名式。7割5分以上の得票で殿堂入り。	
	・変更無し	・7割5分以上の得票者がいなかった場合、上位3名に限定して2名以内の再投票を行い、7割5分以上の得票で殿堂入り。	

☆印は変更もしくは新設項目



殿堂入りの人々を語る (17)

「わが父・サブちゃん」

横澤 英雄 (横澤 三郎氏 長男)



1988年殿堂入り
横澤 三郎氏レリーフ

ことは丁度父 横澤 三郎 (93才で他界) の13回忌なんです。そして私、長男 英雄は77才……何と月日の経つのは早いものです。すべての野球人の方々から“サブちゃん”と呼ばれ、野球一筋に生きた父サブちゃんが私は大好きで、又誇りに思っています。

東京六大学の明治の二塁手として華麗なプレーを見せたそうですね。その後六大学の審判員を経て、プロ野球草創期に「東京セネターズ」の監督に。勿論その頃の事は私は知る由もありませんが、宝塚の野球場で練習しながら、宝塚歌劇のファンになった様で、父三郎、兄の次男 (マネージャー)、弟の四郎、七郎 (共に選手) らが、あの宝塚大劇場前の“花のみち”をうろうろすると歌劇の関係者が「又横澤兄弟が来ている」といやな顔をされたと、私から見れば、この叔父たちの話を耳にしたものです。しかしこの叔父たちは七郎を除く3人とも、この初期の宝塚生と結婚しました。宝塚歌劇、阪急電鉄、阪急ブレーブスの生みの親、小林 一三翁も結婚となれば許して下さったようで、小林翁はその後も何かと横澤一家を気にかけて下さり、私が宝塚歌劇団の演出部に入れたのもそのお蔭です。

さて、私も幼少期を過ぎて麹町小学校、牛込の府立四中 (現・都立戸山高) の帰りには、毎日のように後楽園球場に立ち寄り、セネターズの試合、その後は父の審判振りを観て一緒に帰宅したものです。勿論セネターズの勝った日、審判がスムーズに出来た日は父は上機嫌。父は当時の野球人としては珍しく酒を飲まず煙草も吸いませんが、気難しい所もあり母はとでも気を使っていたのが判りました。当時のラジオの野球中継でセネターズの試合があると母はラジオの前に釘づけでした。セネターズが敗色濃くなって来たある日、母はよくお参りに行っていた浅草の観音様の像の形をしたおせんべいをラジオの前に立て掛け、母は一心に祈り出しました。何とセネターズは大逆転で勝利。その夕食時は父より母の方が上機嫌でした。セネターズと審判の出来具合で、その日の空気が変わる家庭でした。しかし根本は父はやさしく一人っ子の私をとでも可愛がって、野球好きになった息子を大切にしてくれました。

祖父の横澤次郎 (三郎の父) は児玉大将の秘書官として認められ、児玉大将のあとをついで台湾総督府の総督を務めた程の人で、プロ野球とは縁の遠い人でしたが、私が小学校1年生を修了した時、当時の「全甲」(前科目が甲) を戴いてその通信簿を持って祖父を訪ねた時、祖父は大喜び、父三郎の前で「英雄はお父さんようになってはいかんぞ。本でメシを食え」と言われてお小遣いをくれました。つまり野球商売を理解しない人でしたが、私が「本でメシを食え、とはどういうこと？」と父に尋ねると「本で勉強してえらい人になれという事だよ」嬉しそうに言ってくれました。今私はまがりなりにも、脚本演出という本でメシを食っているわけですから、父が「おじいちゃんは喜んでいるよ」と云ってくれたのが私の生涯に残るひと言でした。

戦後になりました。父は再び第2次「東京セネターズ」の監督となりホームラン王大下 弘、大投手白木 義一郎、名内野手荻田 久徳らにより、巨人のような常勝チームにはなりませんでしたがスマートな人気チームとなりました。後楽園の選手食堂で私がこれら選手の方々から「ヒデほん」と呼ばれて相手になって下さり、それも父の嬉しいことのひとつだったようです。

そして父はパ・リーグの審判部長を経て、現役引退後、野球殿堂入りを果たしました。その知らせを受けた時は涙を流して喜び、もう明日死んでもいいという態度でした。この年は長嶋さん、金田さん、別当さんら大スターと共に受賞でき、東京ドームでの受賞式はとでも華やかで、父も幸福に浸っておりました。

父はスポーツマンらしく細身ながらも健康に恵まれ、93才で他界する直前までゴルフを楽しみ、野球人としての人生の喜びをかみしめながら、病苦もなく去ってゆきました。私は「サブちゃん」は本当に幸福だったと心から思っています。



知ってほしいこんな資料(61)

中村審判(元パ・リーグ)のブラシ

元パシフィック・リーグの審判で、ベースボール・マガジン社のニューヨーク支局員としても活躍された中村浩道氏が今年4月に急逝され、ご遺族より同氏の使用された審判用具をはじめ、サインボール、バット、さまざまなチームの帽子など、また10,000枚を超える野球カード(大リーグだけでなくマイナーリーグのものも)や書籍・雑誌など総計13,067点の資料をご寄贈いただきました。



今回は、ご寄贈いただいた資料の中から、中村さんが使われていた審判用ブラシ(プレート・ブラシ)をご紹介します。写真にあるように「SPORTS OFFICIATING SUPPLY」と刻印されています。「スポーツ審判用品」とでも訳すのでしょうか? メーカー名なのかもしれませんが、残念ながら今のところ良くわかりません。木製部分は持ちやすいようにくびれた形になっていて、大きさはたて10.8cmよこ5.7cmで、小さなものです。よく見るとブラシ部分はだいぶすりへって、先端がギザギザになっています。プレートをめぐるトラブルを未然に防ぐために、ホームプレートに常に気を配りきれいにするという、審判の重要な仕事のために、かなり使い込まれてきたことが想像できます。(写真は、一緒にご寄贈されたボール袋、インジケーターと共に撮影しました。)

調べ物のため、当館の図書室で静かに洋書を読んでいらした中村さんの姿が思い出されます。ご冥福をお祈りし、ご寄贈いただいた数多くの資料を有効に活用させていただきたいと思えます。

学芸員 新 美和子



こんにちは図書室です



東京ドームができるまえは?

東京ドームができて来年で20年になります。ではドーム球場ができる前は何かあったのでしょうか。1949年に競輪場ができ、その後競輪場跡地に、ジャンボ・プールが建設されました。そして東京ドーム建設のため、ジャンボ・プールの営業が1984年9月2日に中止され、その3日後の9月5日に「後樂園エアドーム計画」が発表されました。そして翌1985年5月16日に起工式が行われ、1988年3月17日に「東京ドーム」として開場しました。

司書 山根 礼子

競輪場(1949年~1973年)の主なできごと		ジャンボ・プール(1973年~1979年)のできごと	
1949年 7月25日	起工式が行われた。建設以前には、東光自動車、民生木工所、醤油統制会社、都の自動車練習場などがあった。	1973年 7月15日	ジャンボ・プールが開場した。競輪場跡地の活用で、走路の内側に沿って周囲400メートルの流水プールや競技用プール、子ども用プールを作った。
1949年 10月31日	競輪場が開場した。約3ヶ月で、競輪場(1周400メートル)が建設された。この日から3日間、第4回秋季国民体育大会の自転車競技場として使用された。	1974年 11月9日	夏季プール以外に本格的なゴルフ練習場として活用した。
1950年 5月	競輪開催以外の利用として、競輪場の車券売場に31台の卓球場が開設された。	1984年 9月2日	東京ドーム建設のため、営業が中止された。
1950年 12月4日	競輪の開催以外の利用として、200ヤードの打ち放しゴルフ練習場を開設し、夜間も利用できた。		
*その他にも、サッカー、自動車ショー、サッカー、ハンドボールの国際試合なども競輪場で開催された。			

参考資料『後樂園の25年』『後樂園スタジアム50年史』など



コラム／博覧・博楽 (24)

通り抜ける心地好い風

中村 茂樹 (野球体育博物館 維持会員)

1988年3月17日、日本初のドーム球場であります東京ドームが完成しました。愛称は“BIG EGG”。この巨大な卵の誕生で、日本プロ野球は新時代に突入したと言われました。雨天中止の心配がなくなることで、先発ローテーションも立てやすくなり、さらに常に快適な環境でのプレーが可能のため、選手の体調維持も容易となります。さらに、従来の球場よりフェンスが高く、両翼、中堅が広いため、強肩の外野手が求められるなど野球の質も変化しました。メジャー・リーグで初めてできたドーム球場は、1965年、テキサス州ヒューストンに造られたアストロドーム。そこから遅れること約四半世紀でプロ野球本拠地球場の切実な夢が現実になったわけでもあります。そして、福岡、大阪、ナゴヤ、札幌など超大型ドーム球場の開場が続き、今では東京ドームが広いとは言えなくなるほどになりました。パ・リーグの試合は、ほとんどがドーム球場で開催されているということになっています。野球好きな小学生、中学生、さらには高校生の皆さんは、野球は屋根のあるグラウンドでプレーまたは観戦するのはあたりまえとっているのですね。当然です。時代を象徴するものとして普及し、ファンに浸透しましたから。しかし私の小学生時代（昭和40年代）は、野球は屋外で青空のもと心地よい風にふかれ、時には雨にうたれ…なんて言うのが定番の風景でして、屋根のあるグラウンドでプレー、観戦できるなんて、夢のまた夢、考えられませんでした。

東京は池袋で生まれ育った私が、初めてプロ野球に接することができました、東京ドームの前身であります、後樂園球場にまつわるお話をこれからしていきたいと思います。

思い起こせば初めて観戦をした試合は、パ・リーグの公式戦、東映フライヤーズ対東京オリオンズ。さしずめ球団の系列からして現在でいうならば、北海道日本ハムファイターズ対千葉ロッテマリーンズということになりますか。小学生時代の夏休み中でのナイター観戦でした。座った位置は三塁側ベンチ付近のかなり後方でした。まずカクテル光線の中の選手、そして緑の芝と土のグラウンドが浮き上がってくるような鮮やかな艶やかさと言いますか…。初めて生で、この眼で見た情景は感動し、忘れられなくなりました。内野のフィールド、マウンドと一塁線、三塁線以外のダイヤモンド内に芝が張られており、ホームチームである東映選手の白いユニフォーム姿が、ほんとうに子供ながらきれいなあとと思ったものでした。座った位置からして、バッテリー間がよくわかり、特に左バッターの構え、スイングのようすなど、若かりし張本選手などを目で追っていたということになります。

ピッチャーの投げた球が、どれくらい速いかということもわかったポジションではありますが、現在は球速がスコアボードに表示されますが、昔は全くファンにはわかりませんでした。当時、両チームのピッチャーが投げている球速は、想像ですが140km/hから150km/h台と言ったところでしょうか。スコアボードも今や電光掲示板、オーロラビジョンスタイルですが、確か昭和44年まででしたか、旧式のいわゆる回転表示板式のものでした。得点を表示するチームの愛称の頭文字の色は確か黄色で書かれておりました。

またその後日に見に行った巨人戦ではやはり、長嶋選手、王選手が注目の的でありました。当時の後樂園球場はホームランが飛び出すと、バックスクリーンから噴水が上がる仕組みでして、これまた華やかな風景として思い出されます。まだまだ脳裏に焼きついていることはたくさんあり、紙面の都合で書ききれませんが、地下鉄を降りると少し見えたジャンボスタンドのようす、センター後方屋外にあった一般向けの硬球打撃ゲージ等、自然な空気の中で、いろいろな体感を体験できた後樂園球場。そんな純粋に野球を愛する心を育ててくれた懐かしい広場へ、タイムトンネルを抜けてもう1度行きたい、そんな気持ちにかられます。



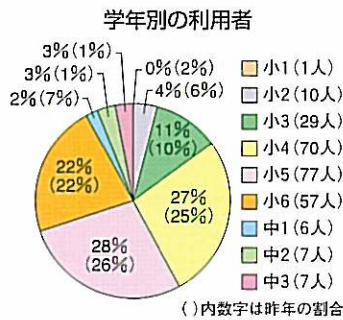
夏休みイベントのご報告

▶野球で自由研究!

7月21日(土)～9月2日(日)まで、野球体育博物館内の図書室で、小・中学生を対象に自由研究のテーマを提供する「野球で自由研究!」を行いました。

今回はポジションごとに形の違うクラブ、選手によって形や重さの違うバットを実際に触れたり、「ボールができるまで」やバットの原料となる木の種類を調べたりなど、さまざまなかたちで用具の情報を提供しました。ほかには野球場や野球用語、野球に関するいろいろな率の計算、野球の歴史などの資料を提供しました。

期間中には約11,000人余りの方が図書室で用具に触れるなどの体験をしました。



学年別主な自由研究のテーマ

	用語	率の計算	野球場	野球用具	歴史	マスコット	その他
小1	1				1		
小2		1	2	4	2	1	1
小3	2	2	7	12	8	2	1
小4	12	1	15	45	14		5
小5	11	5	16	41	26		4
小6	7	4	11	34	18		3
中1	2		1	2	2		
中2			1	4	2		1
中3	2			1	5		3
合計	37	13	53	143	78	3	18



その中で、自由研究を行った小・中学生は264人でした。学年別に見ると小学校5年生が77人と一番多く、次に70人の4年生となり、この2学年で半数以上を占めました。また、中学生は、自由研究というより、総合学習や論文などの資料収集に利用した生徒がほとんどでした。

自由研究をテーマ別でみると、野球用具と野球の歴史、野球場を取り上げる小学生が目立ちました。また、低学年向きに、12球団の全マスコットが勢揃いしたNPBの2007年スローガンポスターを使い、マスコットの名前などを紹介しました。実際にマスコットの事を調べた小学生は3人ですが、興味を持っている子供は大変多いと感じました。

今年の「野球で自由研究!」では、日本地図を模造紙に書き写し、12球団の本拠地の場所をその地図に書き入れたりなど、家で自分の調べたいことをまとめて、博物館でわからないことを聞いたり調べたりして自由研究をまとめた子供たちが印象に残りました。

来年もみなさんといっしょに、楽しく考えたり調べたりできる自由研究のテーマを提供したいと思います。

▶バット製作実演

8月11日(土)、12日(日)に、ミズノテクニクス渡邊孝博クラフトマンによる「バット製作実演」を野球殿堂ホールにて開催しました。

今年も開催情報をあらかじめ調べてご来館されたお客様が多数見られ、お子さんの自由研究に家族で熱心にメモを取り、写真を撮影していました。渡邊クラフトマンには、このような目的の小学生に分かりやすい説明や、質問への丁寧な対応、サンプルを使っでの解説、やすりがけ体験を行っていただきました。

来年以降も、特に野球ファンになりたての小学生や、これから野球を始めようとしている小学生に、さらに興味を持ってもらえる、さらに野球を好きになってもらえるようなイベントを実施したいと考えています。



▶夏休み親子クラブ製作教室

8月13日(月)は「夏休み親子クラブ製作教室」を開催しました。

7月中旬に当館ホームページと館内で参加者を募集、100通の応募の中から抽選で選ばれた12組24名の親子が参加しました。

ミズノのスタッフ6名の方々の指導の下、各組とも約2時間でクラブを完成させ、「自分でつくったクラブ」をお持ち帰りいただきました。





《2007年度の維持会員を募集中！》

財団法人野球体育博物館は、昭和34年に野球専門の博物館として開館して以来、野球や体育に関する資料を収集・保管・公開してきました。バット等の実物・写真資料は約3万点、図書・雑誌は約5万冊を収蔵しており、展示や閲覧という形で多くの方々に利用していただいております。

また、年1回競技者表彰委員会と特別表彰委員会にて野球界の功労者を選出し、「野球殿堂入り」として表彰しています。

維持会員とは、このような博物館の事業にご賛同いただいた方々に、維持会費をお願いし、博物館の運営をご支援いただくものです。

1. 会員の特典

- (1) 当博物館発行「ニュースレター」(季刊)送付します。
- (2) 無料で博物館に入館できる優待証を発行します。
- (3) アメリカの野球博物館(クーパースタウンにある)にも無料で入館できます。
- (4) 会員以外の方でも利用できる博物館招待券を差し上げます。
- (5) イベント情報などを優先的にご案内します。
- (6) 博物館で販売している商品が10%引きになります。

*新個人会員には上記の特典のほか、3月に刊行した『野球殿堂2007』を進呈します。

*新ジュニア会員には上記の特典のほか、「野球体育博物館オリジナルピンバッチ」を差し上げます。

2. 会員の種類と会費

年会費(4月～翌年3月迄)

法人会員	1口	10万円
個人会員	1口	1万円
ジュニア会員(小・中学生)		2,000円

ご入会月により、初年度年会費の割引があります。

ご入会月	4月～9月	10月～12月	1月～3月
維持会費(個人会員)	10,000円	5,000円	2,000円

3. ご入会の方法

①館内にあります「維持会員募集のご案内」の“入会申込書”に、必要事項をご記入のうえ、係りにお渡しいただくかお送りください。

「維持会員募集のご案内」は郵送もいたしますので、ご希望の方は博物館までご連絡ください。

②“入会申込書”が届きしだい“維持会費のご請求書”をお送りしますので、維持会費をお振込みください。

お問い合わせ 博物館 業務部 ^{タカギ}高城・竹内
皆様のご協力、よろしくお願ひ申し上げます。

博物館からのお知らせ

【訃報】

博物館の評議員の方々逝去されました。

- 8月1日 評議員
齊藤 和久氏(享年85歳)
- 9月10日 元特別表彰委員会委員・元評議員
長船 駿郎氏(享年83歳)
- 9月22日 評議員
都築 俊三郎氏(享年91歳)

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

● 博物館のご案内

場 所 東京ドーム21ゲート右
開館時間 3月1日～9月30日 AM10時～PM6時
10月1日～2月末日 AM10時～PM5時
(入館は閉館の30分前まで)
入館料 大人 500円(300円) ()は
小・中学生 200円(150円) 20名以上の団体
65歳以上 300円

休館日 月曜日(祝日、プロ野球開催日、春・夏休み中の月曜日は開館)
年末・年始(12月29日～1月1日)

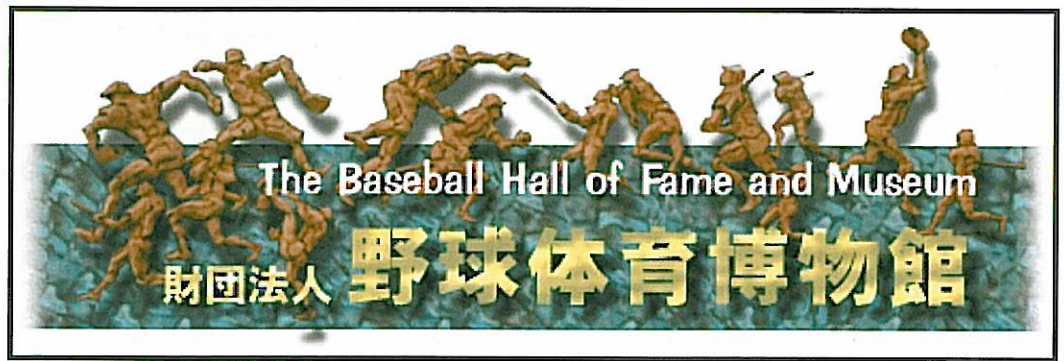
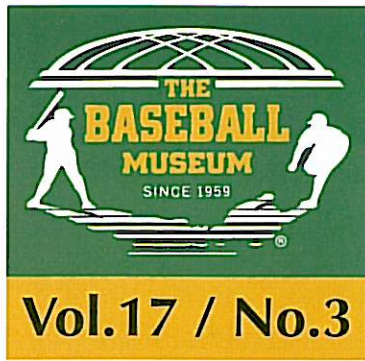
《11月・12月・1月の休館日》

11月 5日・12日・19日・26日
12月 3日・10日・17日・29日～31日
1月 1日・7日・21日・28日

●編集後記 今年のベナントレース終盤は、両リーグともたいへん盛り上がりました。セ・パ両リーグのクライマックスシリーズで日本シリーズ出場チームが決まり、この号がでるころに日本シリーズが始まります。熱い戦いがまだまだ続き、プロ野球から目が離せません。

Newsletter Vol.17 / No.3

2007年10月25日発行
編集・発行 財団法人 野球体育博物館
〒112-0004 東京都文京区後楽1-3-61
Tel 03(3811)3600 Fax 03(3811)5369
<http://www.baseball-museum.or.jp/>
定価 100円



リレー随筆(30)

山本 敏男(特別表彰委員会委員)

今年の夏は九月下旬になっても30度を越す真夏日が続き、日本列島はうんざりの日々を過ごしました。そんな中で「真夏の球宴」(全国高校野球選手権大会)を盛り上げたのが九州の無名の公立校だった佐賀北高校でした。

佐賀県大会で優勝した時は「甲子園では一度くらい校歌を歌いたい」とささやかな望みでふるさとを後にしました。事実、多くのマスコミも「優勝は無理でも1、2回戦くらいは勝てるかも」の評価だったようです。主催者の大会前予想でも7年ぶり2度目の出場でまだ未勝利だったため、BクラスどころかCクラスに上げられたのがやっとの状態でした。

その進学校・佐賀北の目標は「きちんと勉強してから野球に取り組もう」。甲子園に来てからも宿舎で「夏が終われば受験ですから」と教科書を広げていたのもパフォーマンスでない真剣さが見えていました。佐賀北をたくましくしたのは開会式直後の第一試合で福井商に2-0で完封勝利してから。佐賀大会から勝利の方程式となっていた左腕・馬場-右本格派・久保の投手リレーが全国でも通用するのが分かって佐賀北ナインは自信を持ち始めたのでしょ。

2回戦の宇治山田商(三重)は4-4のまま延長15回、再試合となりましたが、選手たちの伸びやかさは揺らぐず、再試合を9-1で完勝。前橋商をも5-2で退け、準々決勝の相手は優勝候補の最右翼といわれた帝京(東東京)。3-3のまま延長入りした13回裏に佐賀北は2死から馬場崎、辻、井手の3連打でサヨナラ勝ち。準決勝・長崎日大戦も馬場-久保の完封リレーで3-0。

決勝の広陵(広島)は7回まで0-4、広陵野村投手に1安打に抑えられ「力尽きたか」と思われました。が、8回一死から2安打と2四球で1点返しなお満塁。ここで3番・副島が1-1からのスライダをフルスイング。土壇場での逆転満塁本塁打で5-4とひっくり返しました。副島の県大会成績は打率5割と好調でしたが、長打力に乏しく本塁打は0。それが甲子園で3本(福井商、帝京戦)もスタンド入りを放つのですから。その佐賀勢の優勝は76回大会(94年)の佐賀商以来13年ぶりですが、この年の佐賀商も4-4で迎えた9回表、2死満塁で西原が本塁打を放って決着をつけており、因縁めいた満塁打でした。

なお佐賀北の優勝で佐賀県は通算34勝47敗1分けで前年までの都道府県別成績34位(28勝47敗)から31位に浮上しました。ちなみに、上位県を見ますと1位は愛媛が113勝56敗1分で勝率6割6分9厘。戦後4度優勝した松山商(松山東も含む)の実績が光っています。2位は大阪が139勝79敗、勝率6割3分8厘(浪華商2V、明星、興国、PL学園4V、大阪桐蔭)3位は広島が107勝64敗1分、勝率6割2分6厘。広島商の6V(戦前3、戦後3)呉港中の優勝が上位の原因。

最近20年の高校野球勢力図を見ますと、70回大会(88年)から10年間は広島商、天理(奈良)、大阪桐蔭、西日本短大付(福岡)、育英(兵庫)、佐賀商、松山商(愛媛)、智弁和歌山と近畿を軸にした西日本勢が頂点に立ち、東勢は帝京(東東京)の2Vだけでした。ところが、80回大会以後は横浜(神奈川)、桐生第一(群馬)、日大三(西東京)、常総学院(茨城)、駒大苫小牧(北海道)、早稲田実(西東京)東勢が7Vと盛り返しています。

来年の90回大会を境にこの勢力図がどのように変わっていくのでしょうか。興味津々です。